現代カリフォルニア農業

—1969年・1974年合衆国農業センサスを中心として—

庄　司　啓　一

序
Ⅰ　カリフォルニア農業の特徴
Ⅱ　農場数の減少とその特徴
Ⅲ　資本の集約化と階級的性格
Ⅳ　農業の専門化
Ⅴ　資本の集積
Ⅵ　結　　語

序

現代アメリカ農業において最も「先進的」な地域はどこであるのか。これはアメリカ農業の「地帯構成」論として何人かの論者[1)]により議論されてきている。

本稿はそのなかで基本的な論点となっている農業における資本主義の特殊な形態のあらわれの一つとしての集約性，そして，その資本主義の生産力段階を画する主要な指標たる資本の集積の程度について，「最も先進的」な地域だとされるカリフォルニア農業の歴史・具体的な分析を意図するものである。本稿の使用した基本的資料は U. S. Dept. of Commerce 1969 U. S. Census of Agriculture Vol. I, part 48, 1974 Census of Agriculture Vol. I, part 5 であるが，表図において引用部分の出所を明らかにすることにより，逐次引用の箇所を指摘することはさけた。

注　1)　鈴木圭介氏は1950年の農業センサスの分析により，カリフォニア農業の集約性の高度化については認めながら，ニュー・イングランドの資本主義的経営がより

高い集約性をもっていることを指摘している。さらに氏は農業の資本主義の発達の段階差を示す基本的な指標として次の二点をあげている。(1)資本主義的農業とは商品生産・雇用労働，(2)農業に投下された資本の大きさ，とくにその有機的構成の高さであるとし，その視角から農業における賃労働の発展は西部，とくに「カリフォルニアを先頭する太平洋岸のめざましい進出にもかかわらず，1910年の頃と同じくいまだにロード・アイランドを先頭とするニュー・イングランド地方が，そのトップをきっているといわねばならない」と述べている。

鈴木圭介 「アメリカ農業における資本主義発達の諸指標」—農業における資本主義発達の若干の問題について—第II部 『社会科学研究』 昭31年3月 56頁。また，同氏による「アメリカ農業の地帯的構造」—農業における資本主義発達の若干の問題について—第一部 『社会科学研究』 第5巻第4号 昭29年12月も参照せよ。また，中野一新氏は1959年の農業センサスを分析し，集約化と資本—賃労働関係の発達を指標とし「カリフォルニアを中心とした太平洋岸諸州は……東北部を完全に追いぬき，アメリカ，否，全世界で農業の資本主義化の最も進んだ地域になっている」と結論している。 中野一新 「現代アメリカ農業の資本主義的性格—U. S. Census of Agriculture, 1959の分析(1)—。『経済論叢』第101巻第2号1965年 46頁。同氏による「現代農業における資本主義の一般法則の貫徹と集約的・商業的農業の成長」『経済論叢』 第101巻第3分であるとのべる。

『現代アメリカ農業の構造』

大内力氏は帝国主義段階における農業発展の基本的傾向は両極分解に基づく資本家的経営の発展ではなく，むしろその解体としての「大型小農化」・「中農標準化」傾向である，と主張し，現段階における農業の機械化は資本の生産力としてあらわれるよりは，むしろその解体として，つまり雇用労働の排除としてあらわれる，としている。そして，この点からいうならば，穀物・飼料等を生産する地域こそが最も先進的な地域である，と主張している。そして氏は「一種の例外的地域」として野菜・果実を作る農場の多い太平洋岸，酪農の東北部，養鶏の山岳部等をあげ，とくに太平洋岸における資本主義的経営の性格の強さを強調している。『現代アメリカ農業』東大出版会 1975年。また『アメリカ農業論』 東大出版会 1965年を参照せよ。

I カリフォルニア農業の特徴

カリフォルニア州は地理的には合衆国の極西部に位置しており，その州の主要な産業の一つに農業がある。農業はその年間農産物販売額において全米のそれの9.1% (1974年) にあたる74億ドルあまりを占めている[1)]。この農産物販売

額を耕種作物と畜産とに分けると，前者は果実，野菜，穀物，綿花等を中心として47億ドル，畜産は肉牛，酪農，家禽等を中心に27億ドルを販売している。そのなかで耕種作物の果実は全米総販売額の49%，野菜のそれは45%あまりに達している[2)]。

このような高い農産物販売額，とくに果実・野菜等の園芸作物の発展はカリフォルニア農業を特徴づける重要な指標[3)]である。そしてこの生産力基盤を支えるのは生産の基礎的過程に限定すれば，西部乾燥地帯と降雨多量地帯とを結びつける水利・排水施設＝灌漑の発展と，資本の大規模集約化と全米第一の資本の集積度の高さである。さらに重要なのは，低廉で大量の短期的労働力を獲保できる労働市場条件[4)]である。

換言すれば，カリフォルニア農業は資本の集約化・専門化・集積の程度，そして資本一賃労働関係という視点から特別に興味がある。

注 1) U.S. Dept. of Commerce, 1974 Census of Agriculture, 1978（以下1974 Censusと略す）Vol. Ⅳ Special Report Part 2 p. Ⅷ。

2) カリフォルニアの園芸作物の耕作地面積を全米の耕作地にしめる割合でみると，トマトの61.5%，レタスの72.3%，イチゴの29.2%，モモの36.3%，西洋ナシの39.7%，ブドウの85.2%，プラムの81.6%である。

3) 園芸作物の栽培は専門化，集約化された農法を基盤としているが，この園芸農法は科学的輪作とともに農法の合理的発展という点から興味のある問題を提起しているように思われる。グラースはこれを「専門化された集約的方式」とよんでいる。三橋時雄・本岡武訳『アメリカ農業史』 1952年 79頁。

4) カリフォルニア農業における賃労働者の役割は特別に重要である。その賃労働は特定の作物，特定の時期に集中しているために季節・一時雇用が重要な役割をはたす。彼らの労働条件はきわめて劣悪であり，賃金は全産業のなかで最低である。しかし，最近の農業労働者の団結・組織化の進行は，大規模経営への賃労働者の集積を基盤として，農業独自の労働問題という性格を強めつつあることが注目される。

Ⅱ 農場数の減少とその特徴

第1表を御覧いただきたい。1945～69年間に61,042農場が姿を消し，その農業従事者20万7千人が農外に放逐された。この期間中，とくに54～59年の5年

第1表 農地面積別農場数（1945～69年）

	1945	1950	1954	1959	1964	1969
農場総数	138,917	137,030	123,075	99,232	80,852	77,875
10エーカー以下		37,402	34,138	24,120	15,937	15,692
10～ 49	53,537	51,760	44,342	34,575	29,475	28,915
50～ 69	7,246	7,303	6,498	5,628	4,688	4,652
70～ 99	8,262	7,954	7,207	6,027	5,188	4,841
100～139	5,548	5,720	5,132	4,619	4,041	3,695
140～179	5,442	4,877	4,395	3,906	3,083	2,972
180～219	2,535	2,526	2,490	2,267	2,011	1,822
220～259	1,988	2,030	1,954	1,811	1,502	1,417
260～499	6,446	6,604	6,148	5,816	5,165	4,657
500～999	4,552	4,853	4,523	4,451	4,096	3,745
1000以上	5,939	6,001	6,248	2,820	2,612	2,541
2000以上				3,192	3,124	2,926

出所：1959, 1964, 1969 US Census of Agri. Vol I, part 48 p. 4, p. 2

間に23,770農場，つまり45～69年間の総減少数の39%が減少したのである。そしてこの減少は農地面積の狭い農場に最も強力に作用した。つまり，一農場あたり農地面積の狭い50エーカー層は総農場数の57.3%を占めるが，この層は54～59年間の総減少数のうちの83%を占めたのである。この減少を土地所有形態別（第2表）にみると，自己の所有する土地のみで経営する完全土地所有農は1969年時においても総農場数の69%を保持しているが，1945～69年間に5万ちかい農場が減少してしまった。そして経営面積は45～64年間に約360万エーカーが減少した。ついで自己の所有する土地とともに他人から借地する部分土地所有農は45年から54年間に4千以上増加するが，54年以降は減少している。しかし，経営面積は若干の減少を示す期間もあるが，45～69年間に750万エーカーも増加している。管理人が経営する農場数は45～59年間に55%の減少を示し，農地面積も200万エーカーの減少をする。だがこの経営は一農場あたりの面積が59年で平均2千エーカーにも及んでいる。最後に，他人からの借地のみにより経営する借地農は64～69年間に若干増加するが，傾向的にはやはり減少している。農地面積は45～64年間にはほぼ横ばいであったが64～69年間には160万

第2表　土地所有形態別農場数（1945～69年）

	農業従事者総数	完全所有者	部分所有者	マネージャー	借地農	構成比			
1945	138,917	102,948	14,106	4,742	17,121	74.1	10.2	3.4	12.3
50	137,168	100,834	17,478	2,556	16,300	73.5	12.7	1.9	11.9
54	123,002	88,870	18,328	2,022	13,782	72.3	14.9	1.6	11.2
59	99,232	68,489	17,756	2,144	10,843	69.0	17.9	2.2	10.9
64	80,852	53,218	15,818	2,149	9,667	65.8	19.6	2.7	12.0
69	77,875	52,727	14,361		9,787	68.9	18.5		12.6
増減率									
45～50	− 1.3	− 2.1	−23.9	−46.1	− 4.8				
50～54	−10.3	−11.9	− 4.9	−20.9	−15.4				
54～59	−19.2	−22.9	− 3.1	6.0	−21.3				
59～64	−18.5	−22.3	−10.9	0.2	−10.8				
64～69	− 3.4	− 1.0	− 9.2		1.2				

出所："A statistical picture of Calif's Agricultire" Calf. Agricultual Experiment Station Extention Service Circular 459 p. 10

第3表　経営の型別農場数（1954～69年）

	1954	1959	1964	1969	54～59	59～64	64～69
総農場数	123,002	99,232	80,852	77,875	−19.3	−18.5	− 3.7
商業的農場小計	89,426	66,929	57,288	54,040	−25.2	−14.4	− 5.7
現金穀物	4,517	3,341	2,731	2,679	−26.1	−18.3	− 1.9
綿花	6,596	5,087	3,259	1,450	−22.9	−35.9	−55.5
他の畑作	1,219	1,019	852	704	−16.5	−16.4	−17.4
野菜	3,496	2,921	2,324	2,262	−16.4	−20.4	− 2.7
果実	31,531	24,273	22,459	23,713	−23.0	− 7.5	− 5.6
酪農	12,452	8,046	5,643	3,872	−35.4	−29.9	−31.4
家禽	11,574	7,022	3,104	2,048	−39.3	−55.8	−34.0
肉畜	10,363	8,928	8,733	9,288	−13.8	− 2.6	− 6.4
一般	5,332	3,968	4,079	3,878	−25.6	2.8	− 4.9
その他	33,576	32,303	23,563	23,835	− 3.8	−27.1	1.2

出所："Statistical Abstract of the US" 各年度

エーカーも拡大し，1農場あたりの経営面積は642エーカーである。ちなみに69年の完全土地所有農の平均経営面積は168エーカーである。それではどの経営の型（第3表）が最も多い減少を示しているのであろうか。まず農場数の最も

第4表 経済階層別農場数（1964～74）

（単位：ドル）

	1964	1964	1974	64～69	69～74	64～74
2,500 以下	29,202	27,014	18,587	− 7.5	−31.2	−36.4
2,500～ 4,999	7,821	8,514	6,112	8.9	−28.2	−21.9
5,000～ 9,999	9,165	9,700	7,451	5.2	−23.2	−18.7
10,000～ 19,999	9,471	9,250	7,889	− 2.3	−14.7	−16.7
20,000～ 39,999	8,961	8,393	7,692	− 6.3	− 8.7	−14.2
40,000～ 99,999	9,077	7,524	8,395	−17.1	11.6	− 7.5
100,000 以上	7,043	7,382	11,424	4.8	54.8	62.3
100,000～199,000		3,902	4,568		17.1	
200,000～499,000		2,441	4,086		67.4	
500,000 以上		1,039	2,774		167.0	

出所：1974 Census Vol. I, Part 5 p. 2, p. 13

多い果実は54～69年間に7千8百あまり減少し，綿花は，同期間に，8千6百あまりが減少している。減少率でみると，家禽，酪農，綿花がとても高い。畜産では家禽が54～69年間に9千5百も減少し，酪農も同期間に8千6百あまりも減少した。減少はこれら4つの経営の型に集中的にあらわれている。それでは経営規模を最も正確に表わす年間農産物販売額を基準とする経済階別の農場数（第4表）の変化はどうであろうか。農場数の最も多い2,500ドル以下層は1964～74年間に1万以上の農場が姿を消した。2,500ドル層～19,999ドル層は64～69年間に若干の増加を示すが，69～74年間にはやはり大幅な減少に転じている。40,000ドル層～99,999ドル層は64～69年間に減少するが，69～74年には増加に転じている。一貫して増加しているのが10万ドル以上層であり，69～74年には54.8%もの増加率を示している。つまり，64～69年間には中小規模農場数の若干の増加があったが，69年～74年間には4万ドル以下層は全て減少した。このように大規模経営数が大幅に増加をするなかで零細農場数は大幅に減少した。とくに大規模経営のなかで50万ドル以上層の地位が急激に高まったことが注目される。

以上，第Ⅱ大戦後多数の農場が姿を消した。その特徴をみると時期的には54

～59年間，農地面積別には50エーカー以下層，土地所有形態別には完全所有農，経営の型別には綿花，家禽，酪農，そして経済階層別には1万ドル以下層に急激な減少がおこっている。

Ⅲ　資本の集約化と階級的性格

A　集約化と資本の有機的構成

農業における資本主義は工業部門とは異った特殊な形態をとってあらわれる。同時に農業における資本主義はきわめて多様な形態をとり困難で長い道のりである。なぜなら，農業生産にとって基本的な生産手段である土地は資本が自由に創出できるものではなく，資本は土地の所有を自己の存在の条件とするとともに自己の対立物として措定せざるをえないからである。したがって農業の発達は，耕地の拡大（外延的発展）としてあらわれ，土地の私的所有の確立により，資本の同じ土地への継起的投下（内包的発展）へと移っていく。つまり，資本は土地の私的独占の確立＝土地所有の制約を同じ面積への資本の多量の投下により，その制約を最少限にし，それによって資本は土地所有を自己の運動法則に包摂していくのである。この点からいって，園芸作物の栽培はより狭い土地のうえに集約的に機械・装置，化学物質，賃労働等の資本投下により，より大きな経営規模の経営体をうちたてている。同時に，われわれは西部乾燥地帯における集約化を考える場合，水の問題を忘れることはできない[1]。しかし，この資本の集約的投下はしばしば資本の有機的構成の高度化と結果せず，それらの構成は低位である。

注　1）カリフォルニア農業は土地の合理的利用，つまり資本にとって土地所有の桎梏を最少にすることにおいて興味のある歴史的模範を提供する。メキシコ領時代からの「原始的」巨大土地所有を農業発展の基盤として出発する州農業は肥沃で広大な土地を最大源に活用し，粗放的・略奪的農法にて急速に発展していく。土地所有は，ここでは実質的に存在しえず，資本の自由な発展が保障されていたといえる。

すなわち，カリフォルニア農業は19世紀末には「ボナンザ・ファーム」とよば

れる「原始的」巨大土地所有を基盤とし，単純だが大型の機械・農具を駆使し，かなりの数の賃労働者を雇用し粗放的・略奪的農法により小麦を単作的に栽培する農業が支配的であった。しかし，19世紀末から20世紀初頭にかけての「大不況」と農業恐慌により大部分のボナンザ・ファームが崩壊した。そして，かつては農場の園地に付属的に栽培されていた果実，野菜等の園芸作物が商品として専門的に栽培されるようになる。それは，より狭い土地により集約的に資本を投下し，単位面積あたりの収益を大幅に増大させた。その背後には工学，地質学，土壌学を基礎としての灌漑の発達があり，1930年代に公的資本を中心として「セントラル・バレイ・プロジェクト」が開始され，州農業は基本的に水の問題から解放された。さらに低廉な外国人労働者，南部からの移動労働者の存在は労働集約的な農法を可能にする重要な要因をなした。

カリフォルニア農業の歴史的基盤についてはマックウィリアムズの著作が詳しい。Carey MacWilliams "Factories in the field" 1935。"California: the Great Exception" 1947等を参照せよ。

a）集約化の進展（1969～74）

1969～74年間は農地・耕作地面積1エーカーあたりの集約性は高まっている。そしてこの集約性の高度化は農地面積の減少と耕作地面積の拡大を伴って進行している。そして農地における集約化は耕地のそれを超えている。これは農地のより合理的利用の進展を表わしている。同時に，賃労働の集約化は進んでいる。さらに，販売額は急速に増大しているのが注目される。同時に，その集約化は不変資本部分の増大が可変資本部分へのそれを超えて，つまり資本の有機的構成が高度化されて進んでいる（第5表）。

ついで経済規模別にみた大規模経営における集約化についてみていこう（第6表）。年間農産物10万ドル以上層（Ia）の集約化は全体的に農地・耕作地面積あたり進んでいるが農地面積あたりにおける化学化と賃労働の進展をのぞいて，平均経済規模層の集約化の上昇率よりも低くなっている。とくに農地1エーカーあたりの販売額の上昇率は平均と比してかなりの程度低くなっている。大規模経営における資本の有機的構成の高度化の進展率は平均的経営のそれよりもおくれている。Iaは農地・耕作地面積ともに増加しているが，とくに後者の増加率が高くなっている。そしてIaは農地・耕作地を拡大している。

第5表　集約化の進展（1969～74年）

（単位：ドル）

	1969		1974		集約化進展率 (69～74) %	
	農　地	耕作地	農　地	耕作地	農　地	耕作地
機械・装置	25.4	113.8	51.5	201.5	102.8	77.1
化学物質	6.8	30.5	15.0	65.8	123.9	115.7
賃労働	18.6	83.5	31.0	127.1	66.7	52.2
販売額	115.1	515.8	292.3	897.0	154.0	73.9
					増加率	
農地面積	33,660,753		32,107,481		− 4.6	
耕作地面積		7,512,535		8,206,097		9.2

出所：1969 Census of Agriculture Vol. I, Part 48 Section 1 pp. 106—121
1974 Census of Agriculture Vol. I, Part 5 pp. 76—91

第6表　Ia 農場における集約化の進展（1969～74年）

	1969		1974		集約化進展率 (1969～74)		
	農　地	耕作地	農　地	耕作地	農　地	耕作地	
機械・装置	26.5	76.6	51.8	147.2	95.5	92.2	
化学物質	9.8	35.6	23.0	65.4	134.7	85.3	
賃労働	30.4	109.6	51.8	147.2	70.4	34.3	
販売額	185.0	667.8	361.0	1,025.2	95.1	84.7	
					増加率		
農　地	15,791,166		17,763,556		12.5		
耕作地		4,374,573		6,256,150		43.0	

出所：1969 Census of Agriculture Vol. I, part 48 Section 1 pp. 292—298
1974 Census of Agriculture Vol. I, part 5 pp. より作成。

次に経営の型別に集約化の進展をみていこう。経営の型別集約性を考える場合，われわれは土地利用・栽培方法の異なる耕種と畜産を区別せねばならない。まず耕種作物のなかで施設園芸における集約性の高度化は他の経営を凌駕していることが注目され，畜産では家禽が注目されねばならない。経営の型的に集約化をみたのが第7表である。機械・装置への投下額の増加率は肉牛・施設園芸・家禽等において高い。そのなかで肉牛におけるフィード・ロットの発展と，同時に施設園芸は装置の発展が想起される。他の畑作は増加率が最も低い。中間的には一般（耕種），果実，綿花，野菜，酪農がある。化学物質への

第7表 経営の型別集約化の進展（1969～74年）—耕作地1エーカーあたり資本投下額

(%)	現金穀物	綿花	他の畑作 (2)	野菜	果実	施設園芸 (1)	一般(耕種)	肉牛	酪農	家禽
機械・装置69	71.7	73.9	104.9	124.9	156.7	490.9	67.4	97.8	211.6	937.6
74	109.1	124.2	127.2	210.1	288.4	1,213.8	142.6	316.1	386.6	2,687.5
69～74	52.2	68.1	21.3	68.2	84.0	147.3	111.6	223.2	82.7	186.6
化学物質69	15.9	25.3	37.5	69.7	45.5	63.7	23.3	10.9	15.3	45.2
74	35.8	46.7	53.7	116.3	75.1	193.6	54.1	20.1	30.5	76.0
69～74	125.2	84.6	43.2	66.9	65.1	203.9	132.2	84.4	99.3	68.1
賃労働69	16.3	31.4	55.3	160.3	133.2	796.6	34.1	41.1	170.6	1,212.7
74	23.7	46.7	53.7	248.2	189.2	2,602.6	81.7	84.1	210.4	2,605.8
69～74	45.3	48.7	−2.9	54.8	42.0	226.7	139.6	104.6	23.3	114.9
販売額69	129.1	162.4	283.4	607.8	511.1	2,453.3	177.4	1,011.2	1,533.1	13,665.7
74	301.8	409.0	446.5	1,144.1	867.1	8,125.1	493.1	2,278.9	2,876.5	29,763.8
69～74	133.8	151.8	57.6	88.2	69.7	231.2	178.0	125.4	87.6	117.8

注）1. 1969年センサスにおいては「その他」に分類されているが，収入源からみると施設園芸とほぼ同様である。
2. ピーナツ，ポテト，サツマイモ，甜菜等を含む
出所：1974 US Census of Agriculture Vol. I, Part 5 pp. 76—91 より作成。

投下額の増加率の高いのは施設園芸で，それは3倍以上増加している。また，一般（耕種），現金穀物も2倍以上の増加をしている。平均的に耕作地面積の狭い施設園芸とともに，広い耕作地をもつ経営での化学物質の集約的投下の様子がうかがえる。賃労働へ移ろう。ここでも施設園芸が増加率を高めている。また家禽，肉畜等の畜産も賃労働の集約化が高まっている。反対に他の畑作は賃労働への投下額が低下した。つまり，施設園芸の集約化は機械・化学物質のみならず，賃労働の集約化としてあらわれ，一般（耕種）もほぼ2倍以上の集約化を達成している。畜産における家禽も集約化を高めている。そのなかで肉牛の集約化の進展度が高いのが注目される。耕作地1エーカーあたりの販売額はやはり施設園芸が最大の増加率をみせている。資本—賃労働の集約化の進展により急速な販売額の増大としてあらわれているのである。他には一般（耕種），綿花が販売額を大きく増大させている。さらに肉牛における機械・装置の投下額の急激な増加はその新たな集約的発展の方向を示唆するものとして注目できる。

b）経済階層別集約化（1974）

第8表　経済階層別集約性（1974年）

経済階層(1)	機械・装置（ドル）		化学物質（ドル）		賃労働（ドル）		販売額（ドル）		耕作地／農地×100	灌漑率（%）	
	農地	耕作地	農地	耕作地	農地	耕作地	農地	耕作地		農地	耕作地
Ia Ⅰ	71.2	158.1	33.5	74.3	79.9	177.3	537.1	1,192.6	45.0	43.9	92.9
Ia Ⅱ	54.3	174.5	17.1	54.9	33.3	107.3	258.5	832.3	31.0	29.3	85.1
Ia Ⅲ	43.6	203.5	10.1	47.1	19.7	92.3	144.2	674.0	21.4	19.4	78.4
Ⅳ	51.0	262.5	8.2	42.2	14.8	76.4	109.2	562.4	19.4	16.6	73.3
Ⅴ	36.9	274.8	4.9	36.8	7.5	55.8	65.5	487,3	13.4	11.1	69.6
Ⅵ	33.7	338.1	3.3	33.3	4.4	44.4	42.8	428.7	10.0	0.8	66.6
Ⅶ	39.6	443.2	2.5	28.1	2.9	32.4	31.3	348.8	8.9	0.7	58.7
Ⅷ	37.4	498.5	2.2	29.6	4.4	59.1	13.9	185.2	7.5	0.8	66.2

注）1. Ⅰは販売額50万ドル以上層，Ⅱは200,000～499,999，Ⅲは100,000～199,999，Ⅳは40,000～39,999，Ⅴは20,000～39,999，Ⅵは10,000～19,999，Ⅶは5,000～9,999，Ⅷは2,500～4,999

出所：1974 US Census of Agriculture Vol. I, part 5 pp. 68—75 より作成。

1974年における経済階層別の集約化をみたのが第8表である。集約化の分析に入る前に経済階層別の農地に占める耕作地の割合をみると，経済階層が大きくなるにつれて耕作地の割合が高くなっていることがわかる。つまり経営規模の大きな経営ほど実際に耕作している土地の面積の割合が高いのである。そして，経営規模が大きくなるにつれて灌漑された農地・耕作地の割合が高くなっていること，つまり大規模経営ほど良質の土地を利用している。さて機械・装置への投下額を農地1エーカーあたりについてみると，経営規模が大きくなるにつれて投下額が高まっている。だが，それを耕作地1エーカーあたりでみると経営規模が小さくなるにつれて投下額が高まっている。つまり，農地にしめる耕作地の割合の低さが要因となっている。これは経営規模の大きな経営は機械・装置を農地全体で合理的に利用していること，中小経営は経営体全体としてより狭い耕作地に多額の機械・装置への資本を投下していること等が考えられる。化学物質（肥料・農薬）は農地・耕作地とも経営規模が大きくなるにつれて投下額が高くなっている。それは大規模経営がより多額の単位面積あたり資本投下をして土地の生産性を増大させていることを示している。つまり，Ⅰ層は耕作地377万エーカーのうえに肥料16億5千万ドル，害虫駆除用農薬6千

2百万ドル，除草用農薬2千8百万ドル等を投下し，土地生産性の増大をはかっているのである。この土地の集約的利用は労働の集約化といかなる関係にあるのか。経済階層別にみよう。まずⅠ層は農地あたりの賃労働への投下額と耕作地あたりとでは97.5ドルもの差があるが農地・耕作地別とも単位面積あたり相当の賃労働を稼動していることがわかる。このように大規模経営における土地の集約化は同時に賃労働の集約化としてあらわれているのである。そして資本と賃労働の集約化により単位面積（1エーカー）あたり農地では537ドル，耕作地では1,193ドルあまりの農産物を販売しているのである。換言すれば，大規模経営は単位面積あたりの土地に多額の機械・装置への投下をし，化学物質を多投すると同時に多額の賃労働を使用して多額の農産物を販売している。それは中小規模経営を凌駕している。しかし，単位土地面積あたりの資本投下額の多い大規模経営は生産手段部分と賃労働部分への投下額の比率においては中小規模経営より低位であることがわかる。つまり，前者は資本の有機的構成の程度において後者よりも劣位であるのである。それは大規模経営における機械化体系の未確立＝労働の集約的利用をしめしている。

c）経営の型別集約化（1974）

経営規模が大きくなるにつれて集約化が進んでいることをみてきたが，経営の型別にその集約化（第9表）の特徴をみていこう。まず耕種部門で最も資本投下額が高いのは農地・耕作地の単位面積あたりにおいて施設園芸である。そこでは農地の約60％あまりが耕作地であるが，その耕作地1エーカーあたりへ機械・装置が708ドル，化学物質が194ドル，そして賃労働へは2,606ドルあまり投下し，常雇労働者0.40人，季節雇0.33人，一時雇0.28人を稼動し，農産物8,125ドルを販売しているのである。そしてこの集約化の高さは他の耕種作物経営を大きく超えている。そして1農場あたり平均耕作地面積が23.8エーカーでしかない施設園芸農場は平均19万2千ドルあまりの販売額をえているのである。耕種では他に果実，野菜において集約化が高度であるが，両経営には若干の差異がみられる。果実経営は機械・装置への投下額において野菜経営を上回っている。しかし，化学物質，賃労働への投下額は野菜のそれより低くなって

第9表　経営の型別集約化（1974年）

経営の型＼資本投下額		機械・装置（ドル）		化学物質（ドル）		賃労働（ドル）		販売額（ドル）		耕作地／農地×100
		農地	耕作地	農地	耕作地	農地	耕作地	農地	耕作地	
耕種	現金穀物	57.7	109.1	18.9	35.8	12.5	23.1	159.4	371.8	52.1
	綿花	105.0	124.2	42.1	46.7	39.5	46.7	345.6	409.0	84.5
	他の畑作	79.1	127.2	33.4	53.7	33.4	53.7	277.7	446.5	62.2
	野菜	175.5	210.1	97.1	116.3	207.3	248.2	955.5	1,144.1	83.5
	果実	184.8	288.4	48.1	75.1	121.6	189.2	555.6	867.1	64.1
	施設園芸	707.8	1,213.8	112.9	193.6	1,504.2	2,580.4	4,698.9	8,125.1	58.3
	一般（耕種）	86.2	142.6	32.7	54.1	49.4	81.7	98.0	493.1	60.4
畜産	肉牛	8.3	316.1	0.5	20.1	2.2	84.1	57.8	2,278.9	2.6
	酪農	136.9	386.6	10.8	30.5	74.5	210.4	1,018.4	2,876.5	35.4
	家禽	559.9	2,687.5	15.5	76.0	544.1	2,605.8	6,200.8	29,763.8	20.4

出所：1974 US Census of Agriculure Vol. I, part 5 pp. 76—91 より作成。

いる。とくに賃労働の耕作地あたりの投下額において野菜は果実を凌いでおり，販売額においても，野菜は果実を大きく超えている。このように野菜は機械化・装置化においては少し劣っているが，露地栽培としては農地の83.5%を耕作した土地を最も集約的に利用し，耕作地面積あたりに多くの賃労働を稼動させて多額の農産物を販売しているのである。だが，施設園芸，野菜，果実経営は資本の有機的構成が低立である。畜産は家禽，酪農ともに集約性が高く，とくに家禽は農地にしめる耕作地の割合は低いが，農地1エーカーあたりの集約性においては，化学物質をのぞいて施設園芸についでいる。しかし，それも資本の構成は低い。

B　階級的性格

それではこの農業の集約化が1農場あたりの経営体としていかなる性格をもっているのかを考察していこう。

経済階層別にみたのが第10表である。この表によれば大規模経営層，とくにⅠ層における資本投下額が他層を凌駕している。Ⅰ層は機械・装置へ21万ドル以上，化学物質へ10万ドル以上を投下し，賃労働へ25万ドルあまりを投下して常雇30.8人，季節雇50.3人，一時雇51.0人を稼動して160万ドルあまりの農産

第10表　経済階層別資本投下額（1農場あたり）

（単位：ドル）

		機械・装置	化学物質	賃労働	販売額	賃労働者数		
						常雇	季節雇	一時雇
Ia	I	215,009	100,947	246,685	1,620,385	30.8	50.3	51.0
	II	65,481	20,610	44,206	312,252	5.5	11.1	13.4
	III	45,515	9,827	22,901	140,754	2.5	6.5	11.9
	IV	29,909	4,806	11,838	64,050	1.1	3.3	9.6
	V	17,686	2,145	5,234	28,444	0.4	1.5	7.6
	VI	13,022	1,111	2,818	14,290	0.5	0.7	5.0
	VII	10,691	581	1,587	7,208	0.1	0.3	2.5
	VIII	9,616	485	2,753	3,021	0.1	0.3	1.6

出所：1974 US Census of Agriculture Vol. I, part 5 pp. 68—75 より作成。

第11表　経営の型別資本投下額（1農場あたり）

（単位：ドル）

		機械・装置	化学物質	賃労働	販売額	賃労働者数		
耕種	現金穀物	59,022	21,433	21,240	154,906	1.4	2.8	3.6
	綿花	67,469	26,383	35,663	211,653	2.9	4.9	9.0
	他の畑作	53,608	28,163	39,643	180,193	3.2	3.7	6.8
	野菜	95,765	54,402	132,357	509,740	14.4	30.1	36.2
	果実	23,302	6,096	20,046	62,680	1.6	5.7	12.6
	施設園芸	31,667	5,165	83,284	191,555	9.4	8.0	6.8
	一般(耕種)	153,664	61,072	105,926	528,547	10.5	24.1	25.2
畜産	肉牛	20,209	3,409	12,808	133,542	0.7	0.5	1.0
	酪農	38,584	5,473	28,886	285,192	2.7	1.2	1.8
	家禽	43,346	2,741	66,643	464,333	6.0	2.9	3.5

出所：1974 Census of Agriculture Vol. I, part 5 pp. 76—91 より作成。

物を販売しているのである。つまり大規模経営層は集約化もきわめて高度であったが経営体として強く資本主義的性格をもっていることがわかる。II・III層においても多額の資本が投下され，かなりの賃労働が稼動されているが，それはI層と比べて格差がある。たが，IV層以下層となると家族労働を主体とし，収獲時に賃労働を使用する農場が増大する。

次に経営の型別に資本投下額をみていこう（第11表）。まず目につくのが機

械・装置，化学物質の投下額において第1位であり，販売額が最大である一般（耕種）であろう。この経営は，すでにみたように，野菜，穀物，果実等を主要な収入源とする農場であり，集約性においてはあまり高くなかった。しかし，このように多額の固定資本投下と広い土地への多量の化学物質の投下により，相当数の賃労働を稼動し，多額の作物を販売しているのである。ついで機械・装置，化学物質への資本投下額においては一般（耕種）に劣るが賃労働においては第1位の資本投下をしている野菜農場が注目される。野菜は施設園芸とならんで集約化もかなり進んでいたが，このように経営体としての規模も大きく，同時に賃労働（常雇14.4人，季節雇30.1人，一時雇36.2）をも多く稼動させている資本主義的性格の強い経営であることが確認される。施設園芸は集約化の程度において他の経営を凌いでいたが，1農場あたりの資本投下額は一般（耕種），野菜と比べてかなり低い。とくに化学物質への投下額は耕種のなかで最低である。しかし，賃労働の投下額は野菜，一般について第3位と高く，常雇9.4人，季節8.0人，一時雇6.8人を稼動させ資本主義的性格をもつ経営が多いことがわかる。その他の耕種経営においては綿花，現金穀物における機械化・装置化が高い。さらに，集約化において比較的高かった果実は，全般的に，資本投下額が低く，販売額においても耕種経営のなかで最低である。つまり，果実には中小規模農場が多いことがわかる。畜産は全般的に農場あたりの資本投下額が低く，土地への化学物質の投下額はきわめて少額である。しかし，家禽は賃労働へ6万6千ドルあまりを投下し，常雇6.0人，季節2.9人，一時雇3.5人を稼動し46万ドルあまりの販売額をあげている。家禽においてもかなり大規模な資本主義的経営が存在することが考えられる。

このように，全般的には集約化の進んでいる経営は大規模なものを中心として資本主義的性格を強くもっており，とくに集約化において施設園芸，家禽，酪農よりも低位であった野菜農場がきわめて強く資本主義的性格をもつことが確認された。ちなみに大規模野菜経営における資本投下額をみると以下のようである。Ia層の平均農地面積811エーカー，うち耕作地753エーカーで機械・装置へ15万ドル，化学物質へ8万8千ドル，賃労働へ18万9千ドルで常雇22.3

人，季節雇50.2人，一時雇57.5人を稼動し，約86万ドルの農産物を販売している。野菜の大規模経営は資本集約的であると同時に資本主義的性格を強くもっている。

Ⅳ 農業の専門化[1)]

「商業的農業の成長は農業の専門化ということにあらわれる。」[2)]（レーニン）

前述しようにカリフォルニア農業は全米の野菜総販売額の44.7%，果実のそれの49.2%を占め，園芸作物の地域的特化＝専門化の先進的な州になっている。それでは州経営の型内部における専門化はどうであろうか。経営の型別の主要な収入源についてみていこう。まず野菜は2,047農場があり，その販売総額は10億3千万ドルあまり，そのうち野菜からの収入額は8億7千万ドル，つまり専門化率は84%である。ついで果実農場2万2千あまりの販売額は13億9千万ドルあまり，そのうち果実からの収入額は13億3千万ドル，つまり専門化率は95%に達する。このように耕種作物，とくに園芸作物の全米総販売額の約半分を占めるカリフォルニアの園芸経営体は高い専門化率を達成しておることが確認できる。他の耕種作物における専門化率は現金穀物のそれが84%，施設園芸が98.5%とかなり高い。そして主要な農産物販売額が一つの農産物で50%に未たない「一般（耕種）」の収入源をみると野菜，穀物，果実が多く，総販売額に占める割合は各々28%，21%，10%であり，その三つの農産物で60%あまりを占めている。さらに「その他の畑作」は甜菜，ジャガイモ，干草，ピーナツを主要な収入源としており，五つの作物で総販売額の31.5%を占める。

全般的に畜産の専門化率は高く，肉牛のそれは91.6%，酪農は88.6%，そして家禽は98.2%にも達しているのである。

1) この数字はすべて，1974 Census Vol. I, part 5 pp. 80—81による。

Ⅴ 資本の集積

カリフォルニア農業における資本の集積度の高さについてはすでに何人かの論者により指摘されている（序の注釈参照）。

ここでは農業内部における土地を含む生産諸手段，さらに賃労働の集積を歴史・具体的に分析することにより，農業における生産力段階の確定の指標とし農工間の不均等発展の「加重化」された段階における農業内部の資本蓄積のメカニズムを解明するための第1歩をふみだす。

a）経営の型別農場数（経済階層）

経営の型別農場数を経済階層別にみたのが第12表である。Ⅰ～Ⅲまでが Ia 層であるが，このように，1974年度には10万ドルを以上を販売する層の数が増加している。Ⅰでは野菜，酪農，果実等が大きな比率をしめ，その三つの経営でⅠ全体の48％あまりを占めとくに酪農と野菜の地位が高いが注目される。Ia となると事態が少し変ってくる。最も多いのは果実農場であり，ついで酪農，他の畑作，野菜とつづく。このように最大規模層において最も多かった野菜の地位は Ia 層では若干低下し，Ⅲの多い果実がトップにでてくる。そして，こ

第12表　経営の型別農場数（経済階層別）

		商業農場数	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
耕種	現金穀物	3,020	209	393	406(1,008)	(3) 619	465	389	321	218
	綿花	2,023	158	249	305(712)	436	308	225	204	138
	タバコ(1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	他の畑作	3,833	329	415	434(1,178)	607	529	524	571	424
	野菜	2,047	486	414	269(1,169)	292	206	167	127	86
	果実	22,286	368	815	1,549(2,732)	4,179	4,386	4,427	3,573	2,989
	施設園芸	2,036	164	216	292(672)	438	250	285	231	160
	一般(耕種)	570	141	122	84(347)	80	61	48	25	9
畜産	肉牛	8,635	227	239	323(789)	838	955	1,392	1,970	2,691
	酪農	3,046	468	907	602(1,977)	536	272	140	96	25
	家禽	1,282	219	295	262(776)	236	96	72	51	51
	他の畜産	1,242	4	13	33(50)	97	130	196	257	512
	一般(畜産)(2)	59			1(1)	8	8	5	8	29
	その他	684	1	8	8(17)	28	26	19	17	577
	計	50,763	2,774	4,086	4,568(11,428)	8,394	7,692	7,889	7,451	7,907

注 1）タバコは農場として登録されているものはない。
2）肉牛，豚，羊，羊毛等をのぞく畜産。
3）（ ）内の数字は年間販売額10万ドル以上層（Ia）。
出所：1974 Census Vol. I, part 5 p. 70

の果実は農場数においても最大であるが中小規模農場が多いのが特徴的である。また，現金穀物，肉牛，他の畑作，綿花経営においては大規模経営も相当数あるがかなりの数の中小規模経営が存在している。50万ドル以上層（Ⅰ）が全体の経営のなかで大きな地位を占めてきていることが注目される。

b）集積の高度化（1964～74）

第13表を御覧いただきたい。年間農産物販売額2,500ドル以上層（商業農場）に占める年間農産物10万ドル以上層の割合の増大が明白である。カリフォルニアの商業農場数の5分の1以上はIaである。農地面積・耕作地面積に占めるIaの割合も高まり土地の集積が強まっている。1974年において機械・装置も64%がIaに集積し，肥料のそれも64年の66.2%から84.3%へと大幅に集積度が高まっている。そのなかで賃労働への支出額は70.9%から90.2%へとIaへの集積の程度はきわめて高くなっている。そのなかで賃労働者（常雇）も集積度が高まっている。農産物販売額も68.9%から87.1%がIaに集積されるようになった。1974年において商業農場数の22.5%を占めるIaが土地を含む生産諸手段，賃労働者を集積し，農産物生産において支配的な地位を確立しているに至っている。

第13表　大規模農場（Ia）への資本の集積（1964～74年）

	農場数	農地面積	耕作地	機械・施設評価額	肥料購入額	賃金支出額	常雇労働者	販売額
1964年	12.3	42.1	57.4	N.A.	66.2	70.9	72.3	68.9
1969	13.7	46.4	58.2	48.9	66.1	75.7	80.0	74.8
1974	22.5	55.3	76.2	64.0	84.3	90.2	87.4	87.1

出所：1964，'69，'74の合衆国農業センサスより作成
1964 Vol.I, part 48 pp.340—361　1969 Vol.I, part 48 Section 1 pp.282—313
1974 Vol.I, part 5 pp.68—75

c）経営の型別集積の高度化（1969～74年）

集積の高度化を経営の型別にみたのが第14表である。これを農場数で見ると大規模経営の進出が全経営の型におきていることがわかる。そのなかで綿花と施設園芸における大規模経営の進出が顕著であり，反対に他の畑作，肉牛にお

第14表　資本の集積の高度化（69～74）—Ia の地位

	現金穀物	綿花	他の畑作	野菜	果実	施設園芸	肉牛	酪農	家禽
農場数69	16.4	10.6	27.7	40.1	5.5	10.1	6.9	39.3	40.8
74	33.3	35.2	30.7	57.1	12.3	33.0	9.1	64.9	60.5
69～74	16.9	24.6	3.0	17.0	6.8	22.9	2.2	25.6	19.7
農地面積69	46.2	69.9	68.2	85.3	35.7	24.5	46.8	66.9	68.9
74	69.2	86.1	70.3	95.4	49.3	76.0	45.4	83.2	82.4
69～74	23.0	16.2	2.1	10.1	13.6	51.5	− 1.4	16.3	13.5
機械・装置69	51.7	50.8	63.7	81.3	25.5	40.7	39.5	64.1	74.7
74	70.3	73.9	72.0	91.7	40.4	72.1	36.5	84.7	89.3
69～74	18.6	23.1	8.3	10.4	14.9	31.4	− 3.0	20.6	14.6
化学物質69	65.3	62.6	77.0	91.5	39.6	63.8	75.1	74.9	86.4
74	70.3	88.0	92.3	97.2	58.3	87.0	62.3	91.4	94.7
69～74	5.0	25.4	15.3	5.7	18.7	23.2	−12.8	16.5	8.3
賃金支出額69	76.3	74.5	85.9	91.3	55.8	82.1	79.6	88.2	94.7
74	91.3	93.6	94.9	97.4	74.6	92.5	78.8	97.5	98.7
69～74	15.0	19.1	9.0	6.1	18.8	10.4	− 0.8	9.3	4.0
賃労働者69	76.2	75.1	88.2	91.5	66.7	80.5	80.0	85.7	94.1
（常雇） 74	90.2	93.7	95.0	88.3	79.6	90.2	75.1	96.6	98.3
69～74	14.0	18.6	6.8	− 3.2	12.9	9.7	− 4.9	10.9	4.2
販売額69	65.6	64.4	76.8	90.1	46.7	80.8	75.8	90.6	87.9
74	86.3	90.1	90.3	97.2	65.1	89.3	89.4	94.7	96.5
69～74	20.7	25.7	13.5	7.1	18.4	8.5	13.6	4.1	8.6

出所：1969 Census of Agriculture Vol. I, part 48 Section 1 pp. 122—153
1974 Census of Agriculture Vol. I, part 5 pp. 92—163 より作成。

いてはそれは停滞している。69年度においてすでに大規模経営の地位が高かった家禽，野菜，酪農もかなりの進出を示している。土地の集積は肉牛をのぞいてほぼ全経営の型でみられる。施設園芸は50％以上の増加率を示し，ついで現金穀物が23.0％，酪農16.3％，綿花16.2％とつづく。野菜，果実，家禽等も10％以上増加している。とりわけ野菜の土地集積度は95.4％にも達している。また綿花のそれも86.1％であり，耕種におけるこの二つの経営の土地集積度は非常に高くなっている。機械・装置へ移ると，ここでも施設園芸における大規模経営の増加率が他を圧倒している。逆に肉牛はまた Ia の集積度が低下している。綿花，酪農も20％以上の増加率を示し，現金穀物，果実，野菜も10％をこ

える増加率を示している。そして野菜のIaへの機械・装置の91.7%にも達しており，家禽のそれも89.3，酪農も84.7%がIaへ集積されるにいたっている。ついで化学物質をみると，大きな増加率を示しているのが綿花と施設園芸である。果実，酪農，他の畑作も集積度が高まっている。だが，ここでも肉牛は12.8%の減少率を示す。Iaへの90%以上の集積度を示すのに耕種で野菜と他の畑作，畜産で家禽，酪農がある。とくに野菜のそれは97.2%である。賃金支出額はすでにIaへの集積度において相当高いが，74年度には肉牛をのぞいて全経営の型が増加している。増加率の高いのは綿花，果実，現金穀作である。69年度に集積度を90%をこえていた家禽，野菜も若干増加し，74年には各々98.7%，97.4%の集積を達成している。酪農も97.5%に達している。綿花は19.1%の増加率を示し集積は93.6%に達した。ついで常雇労働者の集積に目を移そう。綿花は18.6%の増加率を示し，大規模経営への労働者の集積を強めている。現金穀物，果実，酪農も10%以上の増加をしている。集積の達成度の高いのは，家禽98.3%，酪農96.6の畜産である。他の畑作，綿花も90%を集積している。しかし，野菜，肉牛は集積度が低下している。販売額は全経営において集積度が高まっているが，とくに綿花，現金穀物，果実等で増加率が高い。そして野菜は97.2%を集積しており，家禽は96.5%，酪農は94.7%の集積を達成している。また，他では集積度を低下させていた肉牛がここでは13.6%の増加をしめしていることが注目される。

d）集積の到達度（1974年）

この集積の高度化の到達度を少し詳しく確認しておこう（第15表）。われわれが耕種経営においてまず注目せねばならないのは野菜農場であろう。それは商業農場におけるIaの地位が特立している点で他経営を凌駕している。まず，野菜農場は，1974年現在，大規模経営（Ia）が商業農場数の57.1%を占め，農地面積の95.4%，農場価額の93.4%機械・装置の91.7%，化学物質の97.2%，賃金支出額の97.4%，賃労働者（常雇）の88.3%，販売額の97.2%を占める。69年度と比較すると，常雇賃労働者をのぞいて大幅にIaへの資本の集積度を高めている。ついで綿花のIa農場はその商業農場数に占める割合を大きく増大

第15表　大規模農場（Ia）への資本の集積

		農場数	農地面積	農場価額	機械・施設評価額	肥料購入額	賃金支出額	賃労働者	販売額
耕種	現金穀物	33.3	69.2	67.5	70.3	86.3	91.3	90.2	86.3
	綿花	35.2	86.1	81.8	73.9	88.0	93.6	93.7	90.1
	他の畑作	30.7	70.3	73.1	72.0	92.3	94.9	95.0	90.3
	野菜	57.1	95.4	93.4	91.7	97.2	97.4	88.3	97.2
	果実	12.3	49.3	46.6	41.4	58.3	74.6	79.6	65.1
	施設園芸	33.0	76.0	68.4	72.1	87.0	92.5	90.2	89.3
畜産	肉牛	9.1	45.4	41.0	36.5	62.3	78.8	75.1	89.4
	酪農	64.9	83.2	85.7	84.7	91.4	97.5	96.6	94.7
	家禽	60.5	82.4	87.8	89.3	94.7	98.7	98.3	96.5

出所：1974 US Census of Agriculture Vol. I, part 5 pp. 92—163

(24.6%) させ，商業農場数の3分の1以上をしめ農地面積の86.1%，機械・装置の73.9%，化学物質の88.0%，賃金支出額の93.6%，賃労働者（常雇）の93.7%，販売額の90.1%を集積している。農場数が最も多い果実農場はIaへの資本の集積度においては最も低い。しかし，ここでもIaは79.6%の賃労働者（常雇）を集積している。耕種経営の全ての型において賃金支出額のIaへの集積度は90%を超えており，賃労働へ大規模経営における集積度の高さを物語っている。畜産経営は家禽，酪農におけるIaの地位がきわめて高くなっている。酪農は1969年から74年間に農場数におけるIaの割合を大幅に高め，Iaは64.9%にも達している。このIaが生産における主要な担い手になっている。家禽は農場数の60.5%を占めるIaが農地面積の82.4%，機械・装置の89.3%，化学物質の94.7%，賃金支出額では98.7%，賃金労働者（常雇）98.3%，販売額の96.5%と，Iaは生産における支配的な地位を確立している。肉牛は少数の大規模経営が販売額において独占的な地位を占めている。

このようにIaは農産物販売額の全般的な増大のなかでカリフォルニア農業生産における支配的な地位を確立し，生産の主要な担い手となっている。

資本の集積の程度を経済階層別・経営の型別にみてきたが，そこで大規模農場の増加と商業農場数にしめる比率の上昇がIaへの土地・生産手段・賃労働者，販売額の大規模経営への集積度を高め，野菜，家禽等を中心として進み，

それは生産における支配的な地位を確立している。

われわれは資本の集積の程度を経済階層別，経営の型別に分析をくわえてきた。そこでは大規模経営が商業農場に占める比率を増大させ，土地を含む生産諸手段を集積し，それを基盤として労働の社会的生産力を増大させ，販売額の大半を集積するにいたっている。そして，この資本の集積の程度は農業生産の孤立・分散的性格を克服しながら，新たな生産力段階と画されるほどになっている。生産の社会化が強まっている。

Ⅵ 結　　語

農場数が中小規模層完全土地所有農を中心として減少するなかで資本の集約化・専門化が大規模経営，とくに施設園芸，家禽，野菜等を中心として高まっている。そしてその集約化・専門化は耕作地の拡大を伴いつつ同時に経営の資本主義的性格を強め，資本—賃労働関係の拡大としてあらわれている。とくに野菜の大規模経営には多くの賃労働が集積されている。しかし，資本集約的大規模経営においても依然として機械化体系の確立はされておらず，その集約化は同時に労働の集約的利用となってあらわれざるをえず，したがって資本の有機的構成はしばしば低位なものとなっている。

資本の集積は著しく高まっており，Ia がすでに生産における独占的な地位を確立し州農業生産の主要な担い手になっている。とくに家禽，酪農，野菜経営における Ia の地位は高い。同時に施設園芸，綿花における集積の高まりが注目される。以上である。